

## 福井大学附属図書館 フットワークは軽く！多様な企画を実現

福井大学附属図書館では、大学院生が学部生の学修や生活の相談に乗る「ラーニングアドバイザー制度」や「医学部学生図書委員活動」を通して学生との協働を推し進めている。小規模館ならではのフットワークの良さを活かし、学生や教員が“図書館という環境”を存分に活用するための情報発信の場としての役割を果たしている。

<主な企画>

## ・『みんなの本棚』

読まなくなった個人の本を譲り、欲しい本があればもらうことのできる本棚。教科書の書き込みやメッセージが書かれた葉なども本に挟まれていることもあり、譲る人ともう人が繋がることできる。学生だけでなく教職員とも譲りあえるため、世代を超えた本の共有ができることに好評を得ている。

## ・『目次読書法』

工学部創成教育「本を楽しむ会」の教員とのコラボ企画として、オンラインで「イシス編集学校」の講師とオンラインで繋ぎ、目次読書法のワークショップを開催。本を介して、世代や職業を超えた話ができる貴重な繋がりとなっている。

## ・『ブックトーク』

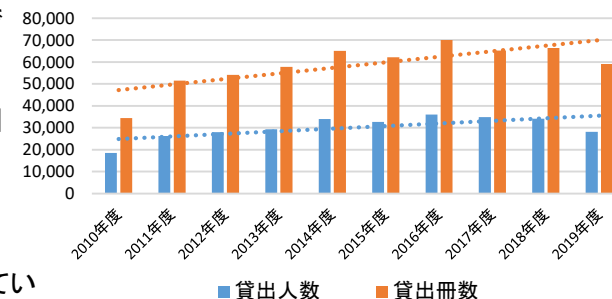
紙の良さを身近に感じながら本について語りたい！をテーマに企画。授業の一環で実施し、学部や学年、所属にこだわらず、本を通してコミュニケーションできる場を実現するため大学図書館を活用した。

## ・『クリスマスコンサート』

学生の管弦楽団による「クリスマスコンサート」や「国家試験受験生応援コンサート」を図書館のラウンジで開催。奏でられる音色は猛勉強中の学生へのエールとなっている。



貸出状況の推移



## 上記取組による成果・評価 など

大学図書館は学生、教職員、地域住民といった多様な利用者が行き交う場所としてキャンパスに位置づけされている。しかし、利用者が固定化される一面もあり、図書館を共有の財産として、1人ひとりが利用目的を達成できる場であることが必要となる。

本学の取組は、利用者の志向に合わせて、目的・企画を実現できる場を提供することで、利用者の達成感の獲得はもとより、利用者層を拡大し、より多くの人々に大学図書館という財産を還元するという、責任を果たすことにつながっている。このことは、図書館予算が削減される中でも貸出状況が右肩上がりに増えてきていることから確認できる。特にオンライン企画に偏りがちなコロナ禍では、閲覧室や自習室も利用し「対面とオンライン」の良さを交互に組み合わせることで、活発な活動の場を実現した。利用者の環境や志向に合わせて、図書館という環境をフル活用するための工夫を創造していくことは図書館の機能に新たなポテンシャルを引き出すことにつながっている。

## 参考URL

・福井大学附属図書館

<https://www.flib.u-fukui.ac.jp/>

